

【2023 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/基礎医学系】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
公衆衛生学		(人) 選択必修 (理.リ作.作.福) 選択	1	(理) 2 (リ作.作.福.人) 1.2	前期 (集中)
担当教員	研究室	電子メール ID		オフィスアワー	
藤井 充	講師控室	kyoumu		水曜日 12:00~13:00	
授業の目的・概要	人々の健康を保持増進させるためには、個人の努力のみならず、社会的・組織的支援体制が不可欠である。本科目は、集団の疾病を予防し国民の健康を良好に保全するための組織的な活動を実施し評価することの必要性に加え、医療・介護の仕組みや生活習慣を重視した健康支援活動、各ライフステージにおける環境整備の重要性について、関係法規と絡めながら幅広く理解することを目的とする。 オンラインによる同時双方向授業の中でこれらが理解できるよう説明する。				
授業形式・方法	<input type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク				
学習上の助言	普段のニュース等で健康に関することに興味を持つとともに、事前に講義内容に該当する教科書の各ページを読んでおくこと。				
教科書	シンプル衛生公衆衛生学 2022/ 監修：小山洋/ 南江堂				
参考書	特になし				
外部教材	特になし				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	健康の概念と公衆衛生の基本を理解できる。		HSU(1)、(2)、(3)		
②	疾病予防、ヘルスプロモーションの概念を理解できる。		HSU(1)、(2)、(3)		
③	社会と健康・疾病との関係を理解できる。		HSU(1)、(2)、(3)		
④					
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	[公衆衛生と行政] 公衆衛生の概念や公衆衛生に関係する行政の基本について学ぶ。ヘルスプロモーションと地域保健活動について学ぶ。	同時双方向型授業	教科書第 1,14 章を予復習する。	2	
2	[健康と環境、疫学的方法] 我が国における衛生の動向を確認し、公衆衛生の意義を見出す。疫学の概念と方法論を学ぶ。	同時双方向型授業	教科書第 2,3 章を予復習する。	4	
3	[地域保健、感染症とその予防] 地域保健の現状について知る。感染症の種類やその予防対策について学ぶ。	同時双方向型授業	教科書第 5,7 章を予復習する。	4	
4	[食品保健と栄養、生活環境の保全] 食品の安全、食中毒、食品衛生管理等について学ぶ。我が国の環境保全対策について学ぶ。	同時双方向型授業	教科書第 6 章を予復習する。	4	
5	[医療保障、生活習慣病] 我が国の医療保険制度の内容と課題等について学ぶ。生活習慣病対策について考える。	同時双方向型授業	教科書第 5,14 章を予復習する。	4	
6	[母子保健、学校保健] 母子保健と学校保健の根拠法と、我が国の現状、具体的対策について学ぶ。	同時双方向型授業	教科書第 8,9 章を予復習する。	4	
7	[介護保険、難病対策] 我が国の高齢者を取り巻く現状と課題を踏まえ、介護保険制度の在り方を考える。	同時双方向型授業	教科書第 4,11 章を予復習する。	4	
8	[精神保健福祉、産業保健] 精神医療の歴史から、新たな課題を考える。健康に影響を与える労働環境や職業病について学ぶ。	同時双方向型授業	教科書第 10,12 章を予復習する。	4	
試	レポート作成 達成度評価・評価のポイントを参照				

【2023 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/基礎医学系】

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		0	80	0	0	20	100
総合力指標	知識・技術力	0	20	0	0	10	30
	思考・推論・創造する力	0	20	0	0	0	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	20	0	0	0	20
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	10	10
	問題を発見・解決する力	0	20	0	0	0	20
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①	✓	講義で興味を持った課題を掘り下げて調べ、パワーポイントのスライド(表紙を入れて8枚以上15枚以内)を、教員が指示した Teams 内のフォルダに提出する。 1枚目は表紙とし、テーマ(キーワードを含める)・学籍番号・学生氏名を書く。授業資料を一部使用して構わないが、それ以外の情報を必ず盛り込むこと。提出期日は講義の中で示す。				担当教員が評価し、必要に応じ学生にフィードバックを行う。個別の質問は常時メールで受け付け、説明を丁寧に行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①	✓	講義中に Forms で課題を出し、その回答状況、内容を評価する。				課題については、講義中に解説を加える。
	②	✓					
	③	✓					
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
他 担 当 教 員	なし						
教員の実務経験	厚生労働省において、疾病対策課長、厚生科学科長などを歴任。その後、山梨県の保健所長として勤務するなど、公衆衛生行政に40年にわたり関与してきた。						
実践的授業の内容	臨床現場で遭遇する可能性が高い事案を盛り込んだ内容とする。						
そ の 他	原則としてすべての授業に出席すること。出席日数が満たない場合は、レポート受け取り不可となるので注意すること。 質問の受付はメールにて行う。授業の進行や内容について不明な点があった場合には確認すること。 学生の理解度に応じ、講義の速度や順番をシラバスの変更も含め調整する可能性がある。 Teams を使った同時双方向型授業を行うため、通信容量無制限の Wi-fi 環境を推奨する。						